

# 岡山県感染症週報 2013 年 第 20 週 (5 月 13 日～5 月 19 日)

◎岡山県では『インフルエンザ注意報』発令中です。

## ◆2013 年 第 20 週 (5/13～5/19) の感染症発生動向 (届出数)

### ■全数把握感染症の発生状況

第 18 週 5 類感染症 風しん 1 名 (20 代 女)

第 19 週 5 類感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 1 名 (80 代 男)

風しん 2 名 (10 代 女 1 名、50 代 男 1 名)

麻しん 1 名 (50 代 女)

第 20 週 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 2 名 (O157: 幼児 女 1 名、20 代 女 1 名)

5 類感染症 風しん 4 名 (幼児 男 1 名、40 代 男 2 名、50 代 女 1 名)

### ■定点把握感染症発生状況

○インフルエンザは、108 名 (定点あたり 1.62 → 1.29 人) の報告があり、前週より減少しました。

○感染性胃腸炎は、601 名 (定点あたり 12.13 → 11.13 人) の報告があり、前週より減少しました。

### 【第 21 週 速報】

○インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 1 施設ありました。(5 月 22 日)

○感染性胃腸炎による学校等の臨時休業が浅口市の幼稚園 1 園でありました。(5 月 23 日)

- 風しん**は、18 週に 1 名、19 週に 2 名、20 週に 4 名の発生報告がありました。岡山県では今年の第 1～20 週までの報告累計が 34 名となり、増加が続いています。  
全国の累計報告数は、昨年同時期の約 32 倍となる 6,725 名が発生し、患者が急増しています。  
風しんについて、詳しくは『今週の注目感染症』をご覧ください。
- インフルエンザ**は、県全体で 108 名 (定点あたり 1.62→1.29 人) の報告があり、前週より減少しました。  
岡山県はひきつづき「インフルエンザ注意報」により注意喚起を図っています。手洗い・うがいなど感染予防に努めてください。県内の詳しい発生状況などは『インフルエンザ情報』をご覧ください。  
全国の第 19 週 (5/6～5/12) の集計によると、定点あたり 1.91 人であり、前週 (2.36 人) より減少しました。  
都道府県別では、宮崎県 (6.61 人)、富山県 (4.56 人)、福岡県 (4.25 人) の順に多く、41 都道府県で前週の報告数より減少しました。
- 感染性胃腸炎**は、601 名 (定点あたり 12.13 → 11.13 人) の報告があり、前週より減少しましたが、第 16 週以降、過去 10 年の同時期と比較して、最も患者数が多い状態で推移しています。  
県内の発生状況など詳しくは『感染性胃腸炎情報』をご覧ください。
- 腸管出血性大腸菌感染症**は、2 名の報告があり、今年は第 20 週までに 11 名が報告されています。過去 5 年の同時期とほぼ同数の発生ですが、5 月頃から患者が増加する傾向がありますので、食肉は中心部まで火を通すなど、通常の食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。

### 流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↓	★	RSウイルス感染症	↓	★
咽頭結膜熱	→	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	★★
感染性胃腸炎	→	★★★★★	水痘	↓	★★
手足口病	↑	★	伝染性紅斑	↓	★
突発性発疹	→	★★	百日咳	↑	★
ヘルパンギーナ	→	★	流行性耳下腺炎	↑	★
急性出血性結膜炎	↓		流行性角結膜炎	↑	★
細菌性髄膜炎	→		無菌性髄膜炎	→	
マイコプラズマ肺炎	↑	★★	クラミジア肺炎	→	

【記号の説明】 前週からの推移:



: 2 倍以上の減少



: 1.1～2 倍未満の減少



: 1.1 未満の増減



: 1.1～2 倍未満の増加



: 2 倍以上の増加

発生状況: 空白: 発生なし

★: 僅か

★★: 少し

★★★: やや多い

★★★★: 多い

★★★★★: 非常に多い

※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

# 今週の注目感染症

## 風しん

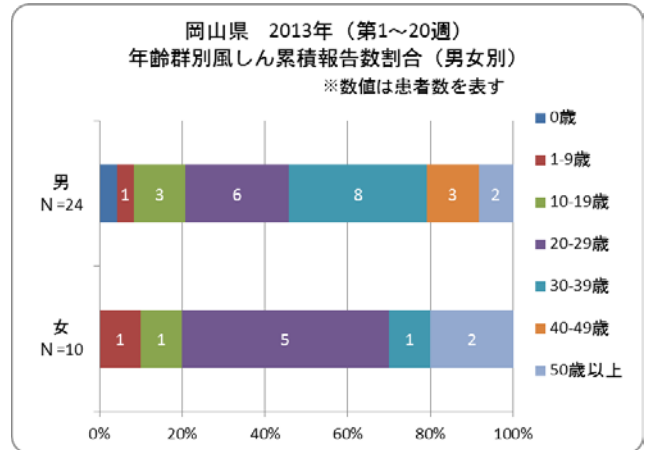
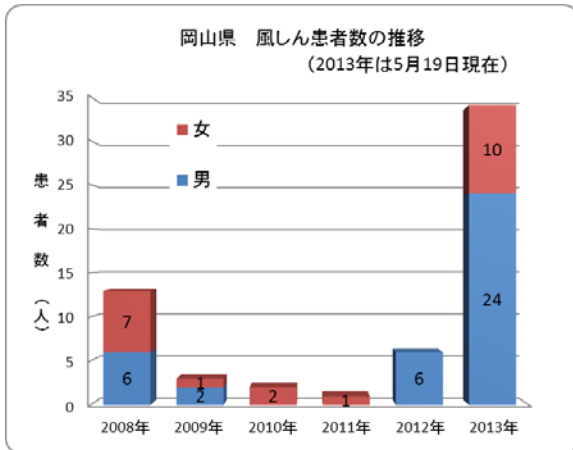
風しんは、「三日ばしか」とも呼ばれ、感染症発生動向調査において全数把握感染症の5類感染症であり、医師は風しん患者を診断したときには、最寄りの保健所に届出ることになっています。

今年は、関東地方・近畿地方を中心に患者が急増しています。風しんは飛沫感染により感染します。風しんの流行地域に出掛け、その後、全身性の発疹、発熱、リンパ節腫脹などの症状がでた場合は、風しんの可能性もありますので早めに医療機関を受診してください。

[\(国立感染症研究所 風しん Q&A\)](#)

### 【岡山県の風しん発生状況】

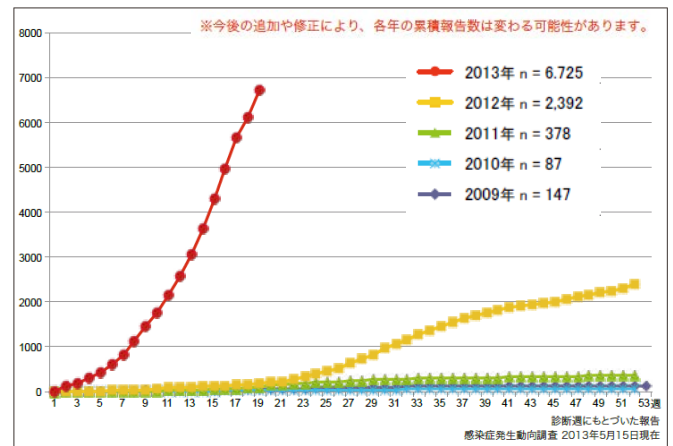
岡山県では、18週に1名、19週に2名、20週に4名の発生報告がありました。2013年第1～20週までの累積患者数は34名となり、風しんが全数報告になって以降で最も多くなっています。患者は、全国集計同様20～30代の男性が中心であり、予防接種歴は、接種歴無しが13名、接種不明が18名、1回のみ接種が3名でした。



### 【全国の風しん発生状況】

今年、全国の第1～19週までの累積報告数は、6,725名であり、関東地方・近畿地方を中心に、患者が急増しています。患者の約8割は男性で、そのうち20～40代が84%を占めています。また女性は、20～30代が59%を占めています。この年齢層は、風しんの予防接種を受ける機会がなかった、または、集団接種から個人接種に切り替わったため、接種率が低く、抗体保有率が低い年齢層とされています。

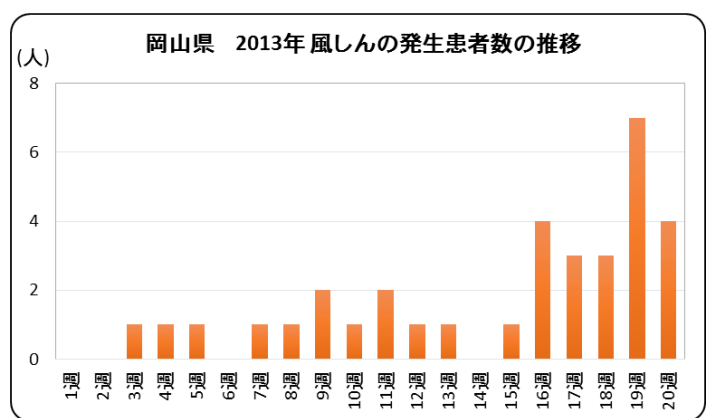
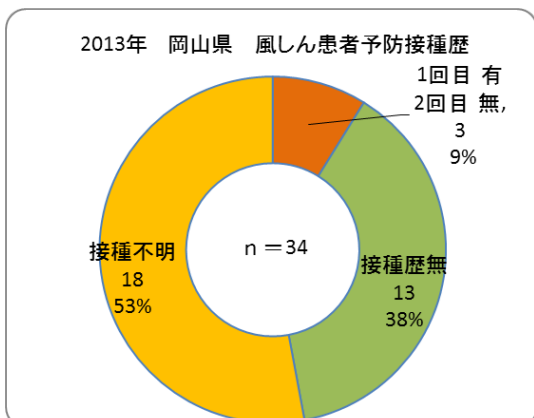
また、妊婦が風しんにかかり、胎児に障がいが発生する [先天性風しん症候群 \(CRS\)](#) は、2012年は5名でしたが、2013年は4月24日までに、すでに5名の発生がありました。



全国風しん累積報告数の推移 2009～2013年(第1～19週)  
国立感染症研究所 感染症疫学センターホームページより

### 【風しんの予防接種を受けましょう。】

風しんの根本的な予防は、予防接種を受けることです。風しんの定期予防接種対象者(1歳児、小学校入学前1年間の幼児)はもとより、これまで風しんの予防接種を受けたことがない方、風しんにかかったことのない方にも予防接種を受けることが勧められています。予防接種については、市町村の予防接種担当課へご相談ください。



インフルエンザ情報 2013 年 第 20 週 (5 月 13 日 ~ 5 月 19 日)

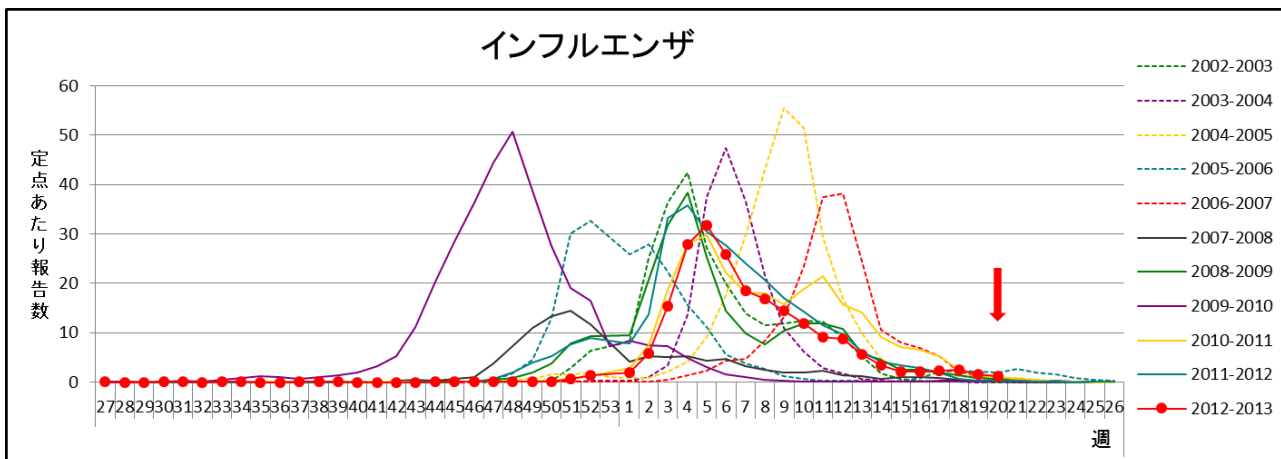
**岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です**

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、108 名（定点あたり 1.62 → 1.29 人）の報告があり、前週より減少しました。  
岡山県は「インフルエンザ注意報」発令中です。
- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 6 施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。

【第 21 週 速報】

- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が、岡山市の小学校 1 校でありました。（5 月 22 日）



※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ~ 今年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

インフルエンザは、108 名（定点あたり 1.62 → 1.29 人）の報告があり（84 定点医療機関報告）、前週より減少しました。

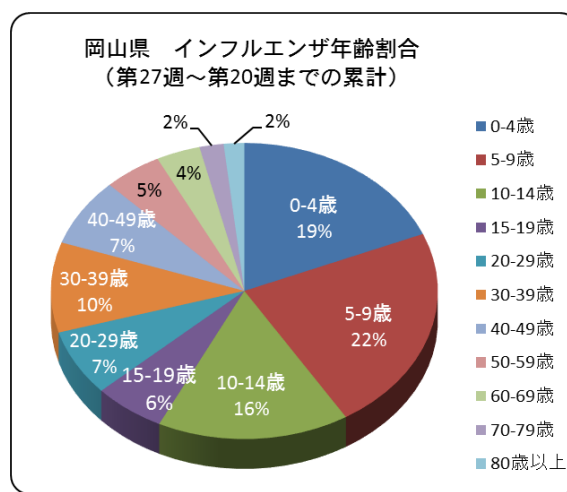
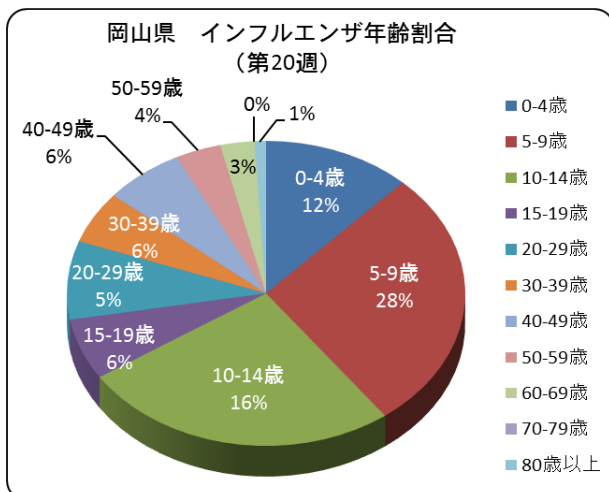
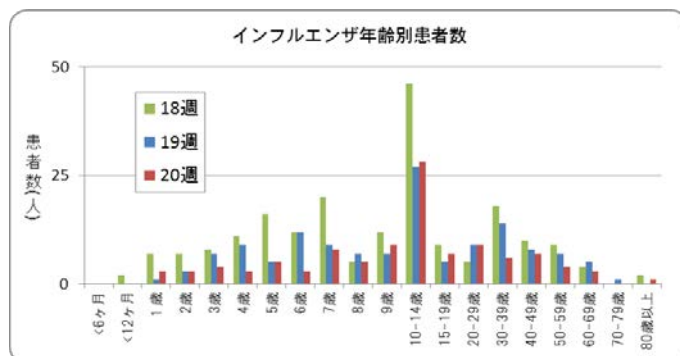
岡山県はひきつづき「インフルエンザ注意報」により注意喚起を図っています。手洗い・うがいなどの感染予防を心がけましょう。また、症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

※注意報の解除基準：2 週連続して、定点あたり 1 人を下まわった場合。

1. 年齢別発生状況

インフルエンザ患者の年齢割合は、5-9 歳が 28%、10-14 歳が 16%、0-4 歳が 12% の順で、幼児、小学生、中学生に該当する年齢層が患者の 56% を占めています。

第 19 週に続き、学校の臨時休業も報告されていますので、ひきつづき集団生活の中での感染に注意してください。





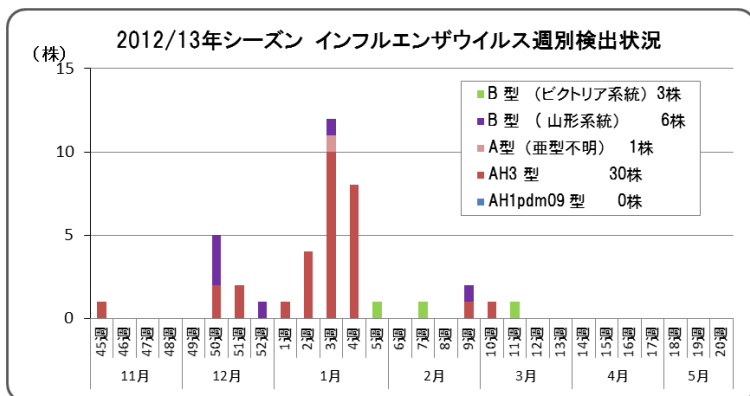
### 3. インフルエンザウイルス検出状況

第20週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、ありませんでした。

今シーズンで、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が30株、A型（亜型不明）が1株、B型（山形系統）が6株、B型（ビクトリア系統）が3株です。

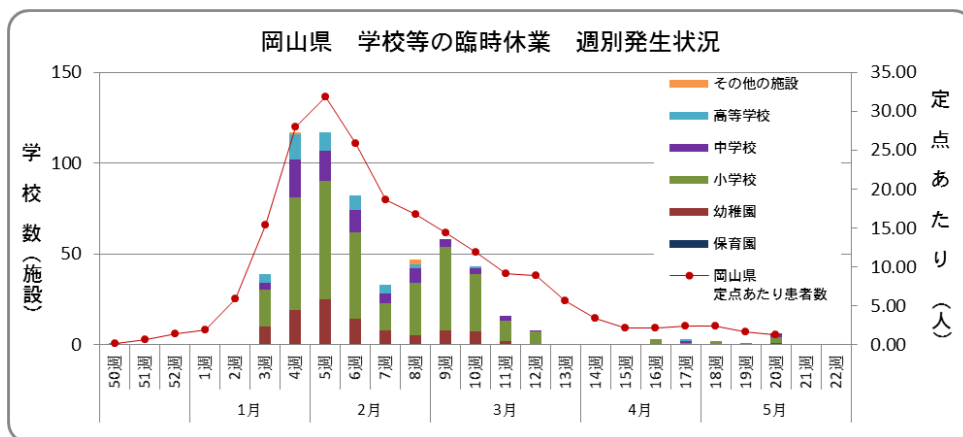
全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が最も多く80%、B型が17%、AH1pdm09型が2%の順になっています。昨シーズン同様AH3型が主流になっていますが、B型の検出割合が徐々に増加しています。

[（インフルエンザウイルス分離・検出速報 国立感染症研究所 感染症疫学センター）](#)



### 4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が6施設でありました。



#### ◆臨時休業施設数

#### 1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳 第20週

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
<b>岡山県全体</b>	<b>53</b>	7926	<b>40</b>	5863	<b>6</b>	577	<b>0</b>	22	<b>1</b>	184	<b>5</b>	371	<b>H 24. 11. 6</b>
岡山市	<b>26</b>	2948	<b>20</b>	2137	<b>3</b>	189	<b>0</b>	2	<b>1</b>	31	<b>2</b>	156	H24. 11. 6
倉敷市	<b>0</b>	1791	<b>0</b>	1288	<b>0</b>	109	<b>0</b>	1	<b>0</b>	15	<b>0</b>	93	H25. 1. 15
備前地域	<b>0</b>	904	<b>0</b>	693	<b>0</b>	83	<b>0</b>	4	<b>0</b>	37	<b>0</b>	42	H25. 1. 15
備中地域	<b>6</b>	1115	<b>4</b>	899	<b>1</b>	93	<b>0</b>	6	<b>0</b>	42	<b>1</b>	45	H24. 12. 12
備北地域	<b>0</b>	310	<b>0</b>	238	<b>0</b>	32	<b>0</b>	3	<b>0</b>	23	<b>0</b>	6	H25. 1. 21
真庭地域	<b>0</b>	128	<b>0</b>	90	<b>0</b>	12	<b>0</b>	1	<b>0</b>	9	<b>0</b>	2	H25. 1. 21
美作地域	<b>21</b>	730	<b>16</b>	518	<b>2</b>	59	<b>0</b>	5	<b>0</b>	27	<b>2</b>	27	H25. 1. 15

\* 地域名は、保健所管轄地域を表しています

#### 2) 臨時休業施設数の内訳

第20週：6施設

累計：577施設

施設数	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	<b>1</b>	99	<b>3</b>	346	<b>2</b>	81	<b>0</b>	47	<b>0</b>	4

◆ **インフルエンザによる出席停止期間が改正されました。**

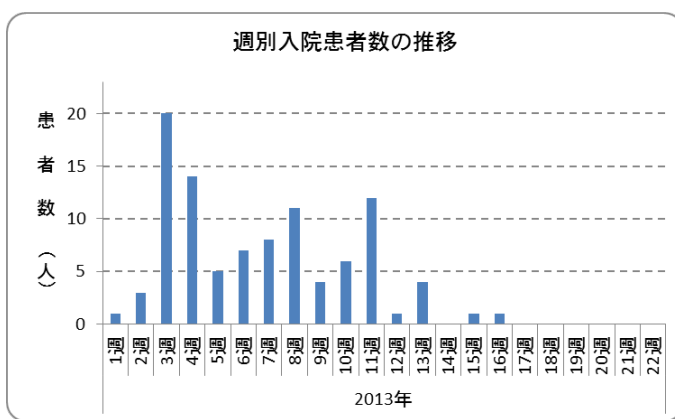
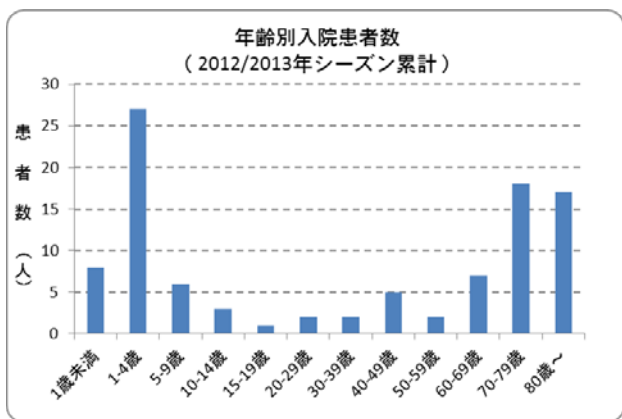
平成 24 年 4 月 1 日より、学校保健安全法施行規則が一部改正され、インフルエンザの出席停止期間が「解熱した後 2 日を経過するまで」から「発症した後 5 日を経過し、かつ、解熱した後 2 日(幼児にあつては、3 日)を経過するまで」に改正されました。水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。

※ [学校保健安全法施行規則の一部を改正する省令の施行について\(通知\)](#)

5. **インフルエンザによる入院患者報告数 ( 県内基幹定点 5 医療機関による報告 )**

インフルエンザによる入院患者は、ありませんでした。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずとうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【平成 24 年 9 月 3 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計*
入院患者数	8	27	6	3	1	2	2	5	2	7	18	17	98
ICU 入室										1			1
人工呼吸器の利用							1			1			2
頭部 CT 検査(予定含)		3	3	1	1	1	1				2		12
頭部 MRI 検査(予定含)		8	2		1		1						12
脳波検査(予定含)		1					1						2
いずれにも該当せず	8	18	2	2		1	1	5	2	6	16	17	78

\* 重複あり

【鳥インフルエンザに関する情報はこちらをご覧ください】

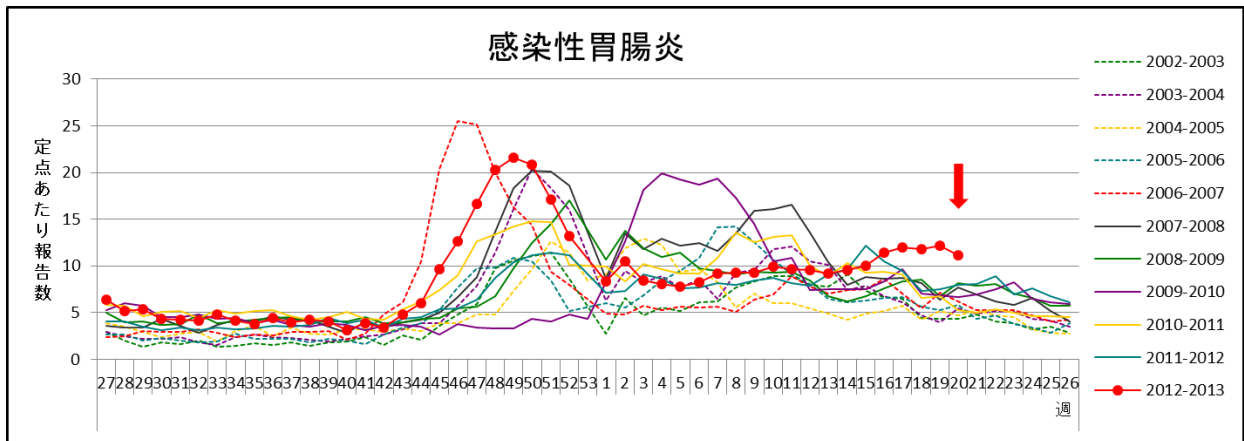
・ [鳥インフルエンザ A \(H7N9\) について](#) ・ [県民の皆様へ](#)

# 感染性胃腸炎情報 2013 年 第 20 週 (5 月 13 日 ~ 5 月 19 日)

○岡山県内の患者報告数は 601 名 (定点あたり 12.13 →11.13 人) であり、前週より減少しました。

## 【第 21 週 速報】

○感染性胃腸炎による学校等の臨時休業が浅口市の幼稚園 1 園でありました。(5 月 23 日)



※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ~ 今年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

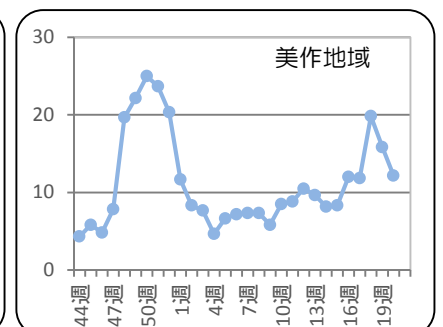
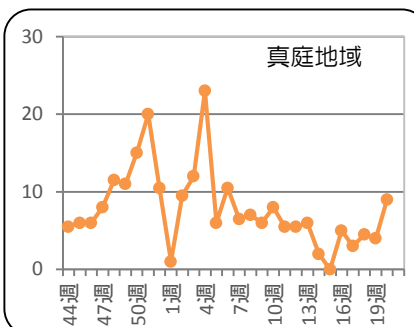
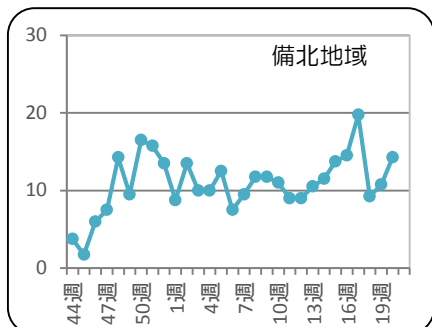
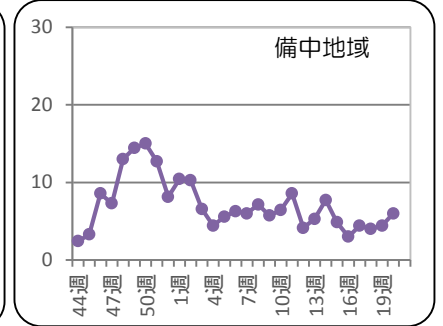
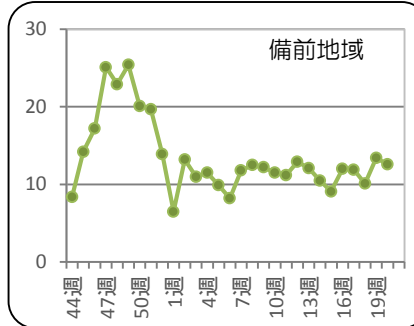
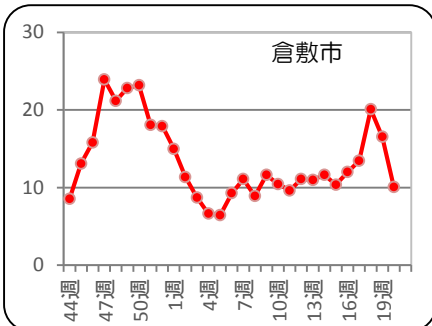
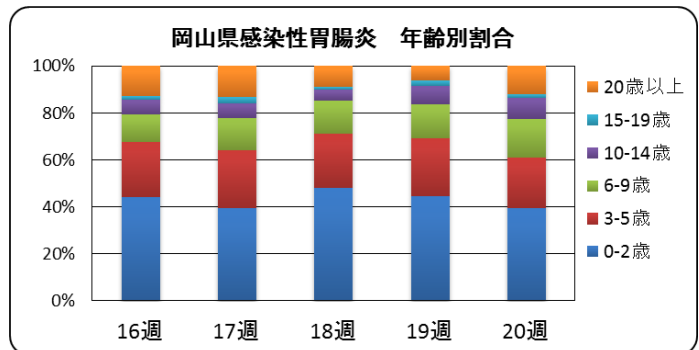
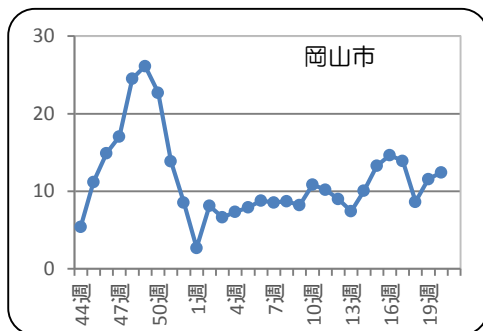
**感染性胃腸炎**は、601 名 (定点あたり 12.13 →11.13 人) の報告があり (54 定点医療機関報告)、前週より減少しました。第 16 週以降、過去 10 年の同時期と比較して、最も患者数が多い状態で推移しています。地域別では、備北地域 (14.25 人)、備前地域 (12.60 人)、岡山市 (12.43 人) の順で定点あたり患者数が多くなっています。

年齢別では、0~2 歳が全体の 39% を占め、ひきつづきこの年齢層の割合が、多くを占めています。

全国の第 19 週 (5/6~5/12) の集計によると、岡山県の定点あたり患者数 (12.13 人) は、大分県 (18.44 人)、新潟県 (15.03 人)、島根県 (13.35 人)、愛媛県 (12.32 人) に続いて全国で 5 番目に多くなっています。トイレの後や食事、調理の前には、特にしっかりと石けんと流水で手洗いを行う等、感染予防に努めてください。

例年 3~5 月にかけては、ロタウイルスによる胃腸炎が、0~2 歳の乳幼児を中心に増加するとされています。ノロウイルスに比べ重症度が高いといわれていますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

### ◆地域別・年齢別発生状況(定点あたり数)



保健所別報告患者数 2013年 20週 (2013/05/13～2013/05/19)

2013年5月22日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	108	1.29	27	1.23	33	2.06	21	1.40	17	1.42	8	1.33	-	-	2	0.20
RSウイルス感染症	3	0.06	1	0.07	-	-	1	0.10	-	-	-	-	1	0.50	-	-
咽頭結膜熱	14	0.26	6	0.43	-	-	1	0.10	1	0.14	1	0.25	1	0.50	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	66	1.22	32	2.29	11	1.00	2	0.20	2	0.29	4	1.00	6	3.00	9	1.50
感染性胃腸炎	601	11.13	174	12.43	111	10.09	126	12.60	42	6.00	57	14.25	18	9.00	73	12.17
水痘	85	1.57	23	1.64	12	1.09	32	3.20	-	-	3	0.75	-	-	15	2.50
手足口病	14	0.26	3	0.21	5	0.45	-	-	3	0.43	1	0.25	-	-	2	0.33
伝染性紅斑	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	31	0.57	15	1.07	8	0.73	4	0.40	2	0.29	1	0.25	-	-	1	0.17
百日咳	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	18	0.33	14	1.00	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
流行性耳下腺炎	18	0.33	7	0.50	4	0.36	4	0.40	1	0.14	2	0.50	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	2	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	8	1.60	-	-	2	2.00	-	-	-	-	5	5.00	1	1.00	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)



保健所別報告患者数 2013年 20週 (2013/05/13～2013/05/19)

2013年5月22日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	108	1.29	27	1.23	33	2.06	21	1.40	17	1.42	8	1.33	-	-	2	0.20
咽頭結膜熱	14	0.26	6	0.43	-	-	1	0.10	1	0.14	1	0.25	1	0.50	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	66	1.22	32	2.29	11	1.00	2	0.20	2	0.29	4	1.00	6	3.00	9	1.50
感染性胃腸炎	601	11.13	174	12.43	111	10.09	126	12.60	42	6.00	57	14.25	18	9.00	73	12.17
水痘	85	1.57	23	1.64	12	1.09	32	3.20	-	-	3	0.75	-	-	15	2.50
手足口病	14	0.26	3	0.21	5	0.45	-	-	3	0.43	1	0.25	-	-	2	0.33
伝染性紅斑	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	18	0.33	14	1.00	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
流行性耳下腺炎	18	0.33	7	0.50	4	0.36	4	0.40	1	0.14	2	0.50	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	2	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 ( 2013年 第20週 2013/05/13～2013/05/19 )

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	108	-	-	3	3	4	3	5	3	8	5	9	28	7	9	6	7	4	3	-	1

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	3	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	14	-	3	3	3	2	2	1	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	66	-	-	-	6	10	8	7	11	5	3	1	10	-	5
感染性胃腸炎	601	11	47	120	59	44	54	31	28	28	25	18	55	8	73
水痘	85	4	4	19	16	17	8	9	4	1	1	-	1	-	1
手足口病	14	-	-	11	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
突発性発疹	31	-	13	16	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	18	-	3	11	1	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	18	-	-	1	1	2	3	-	2	4	-	3	2	-	-

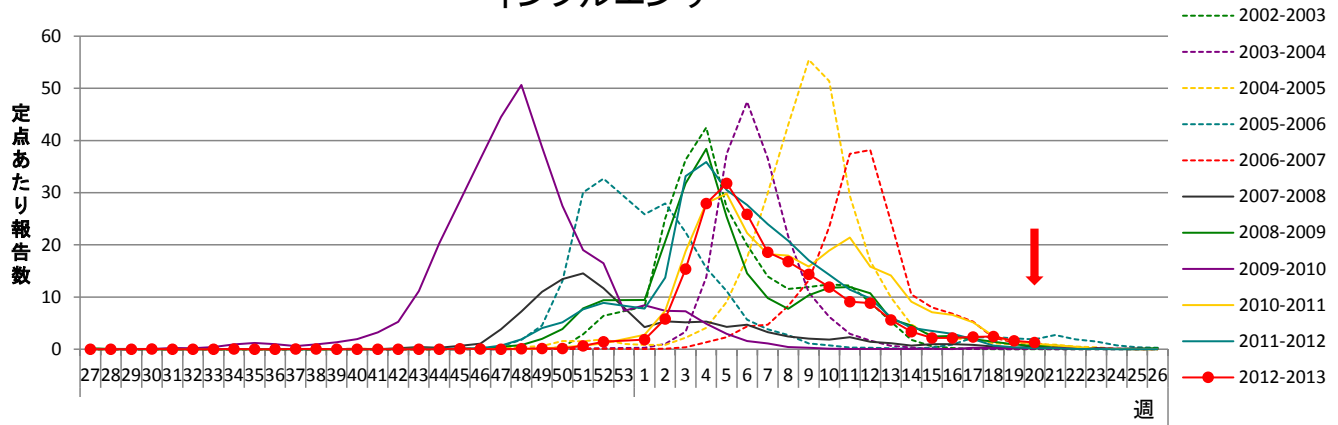
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	8	-	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

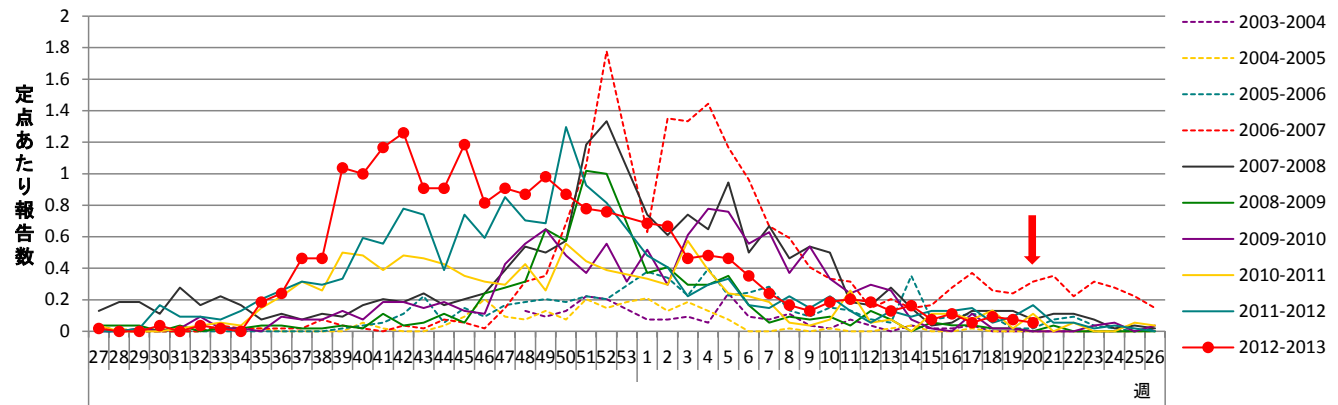
( - : 0 )



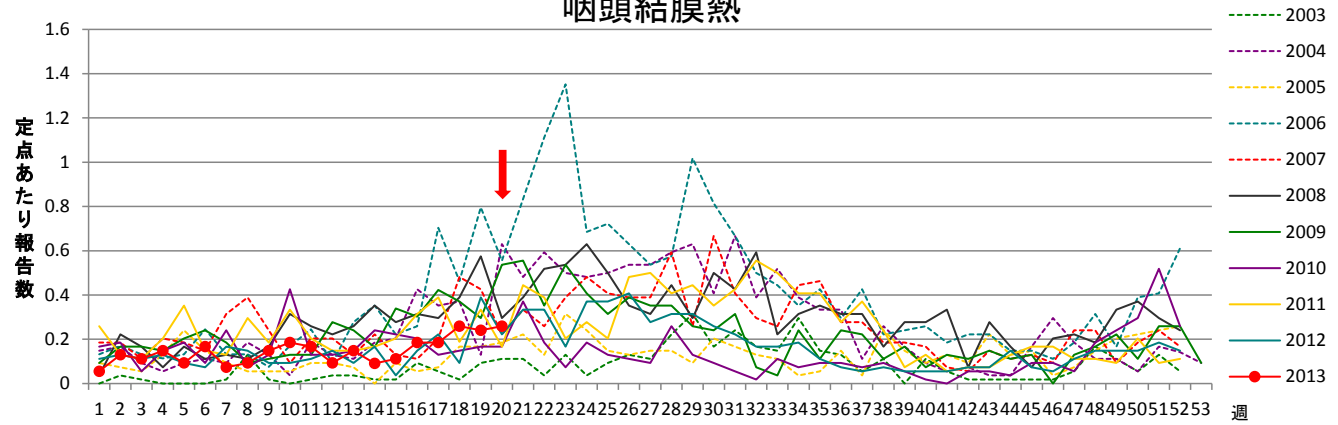
### インフルエンザ



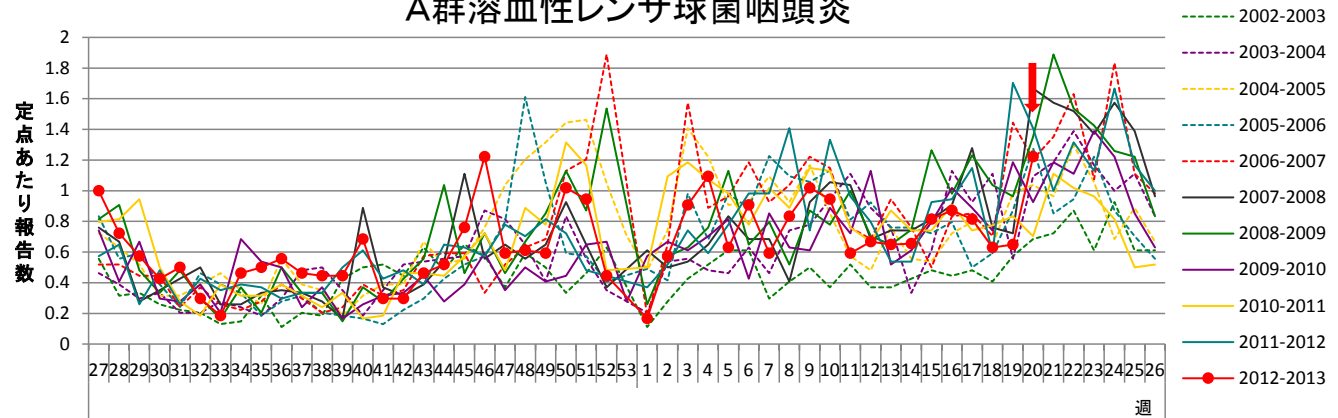
### RSウイルス感染症



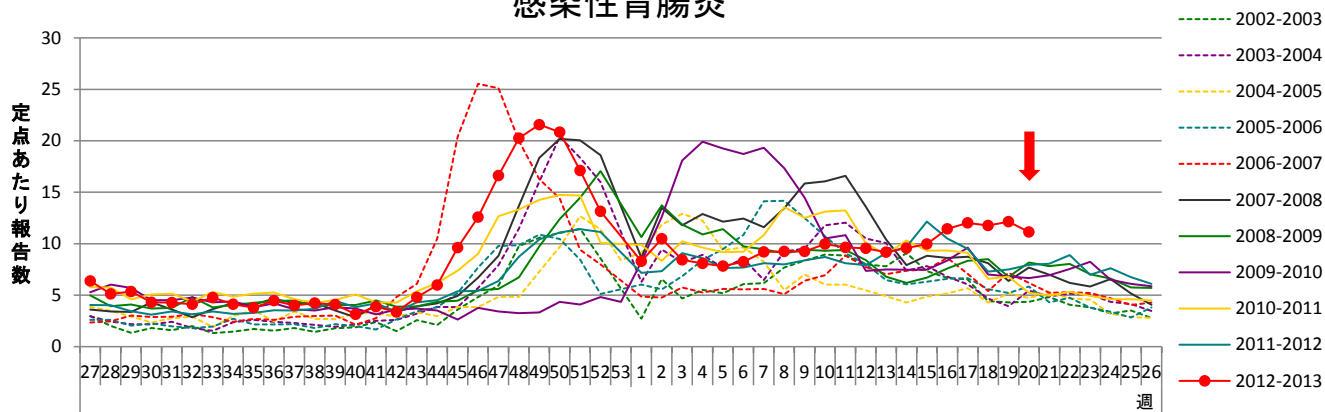
### 咽頭結膜熱



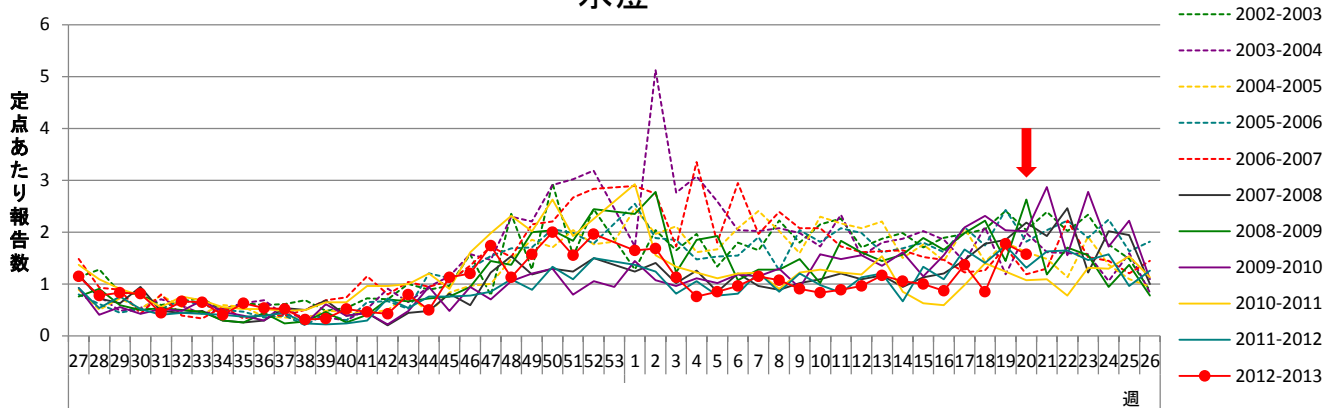
### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



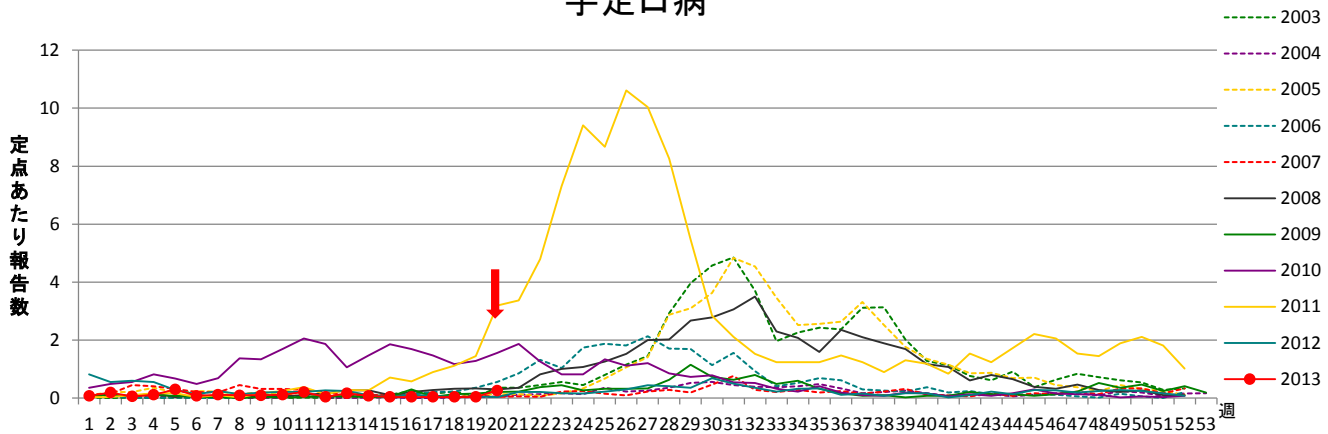
### 感染性胃腸炎



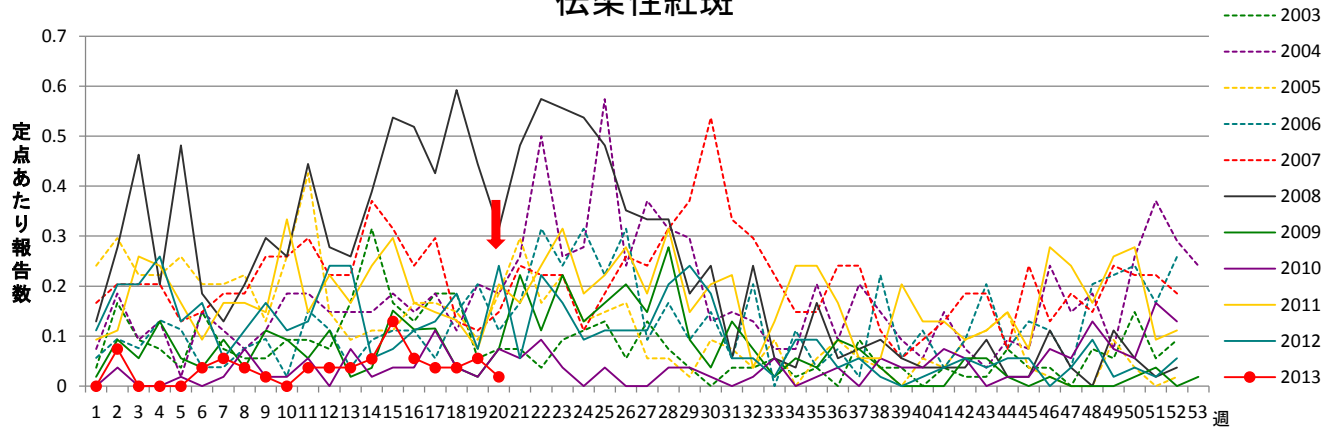
### 水痘



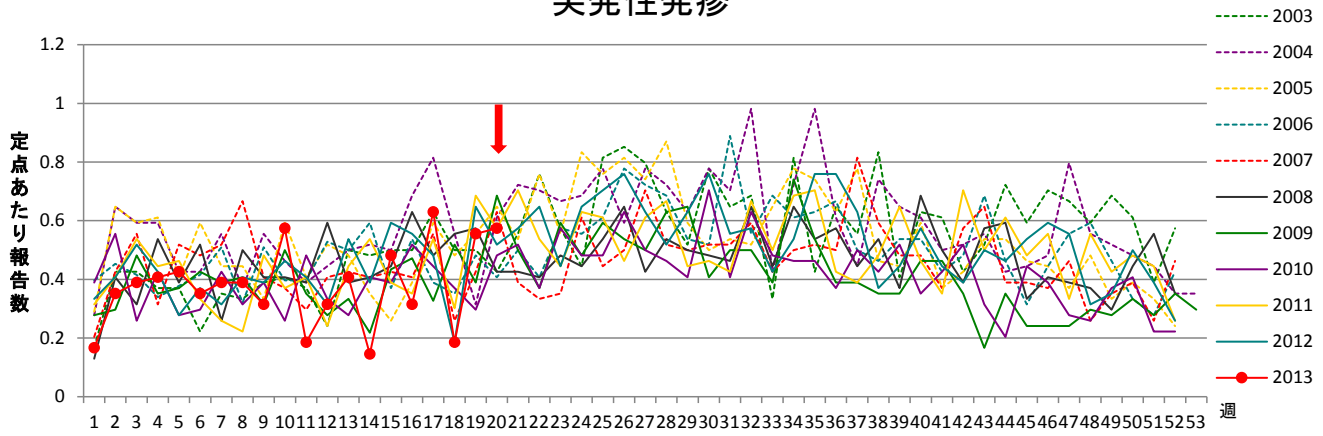
### 手足口病



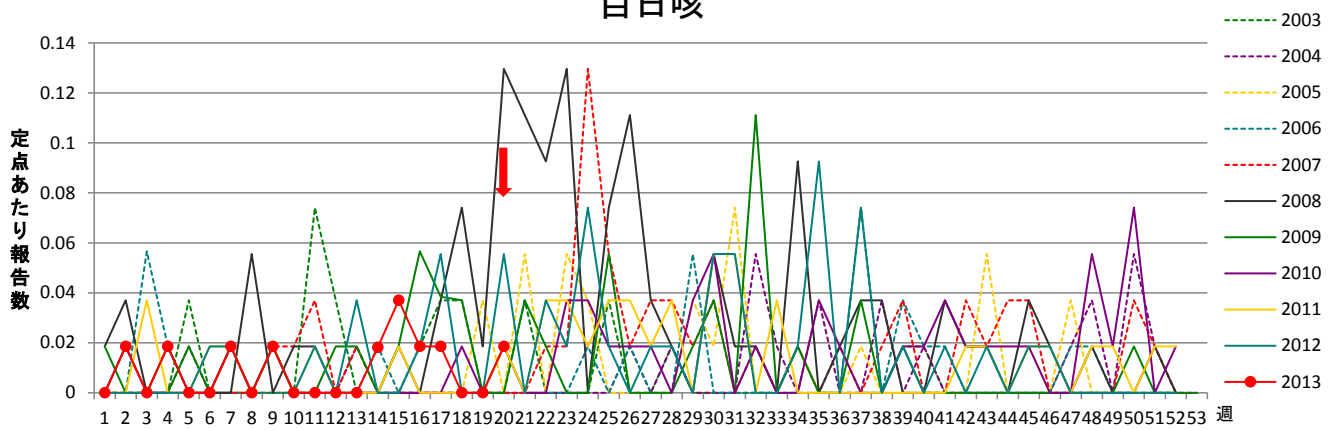
### 伝染性紅斑



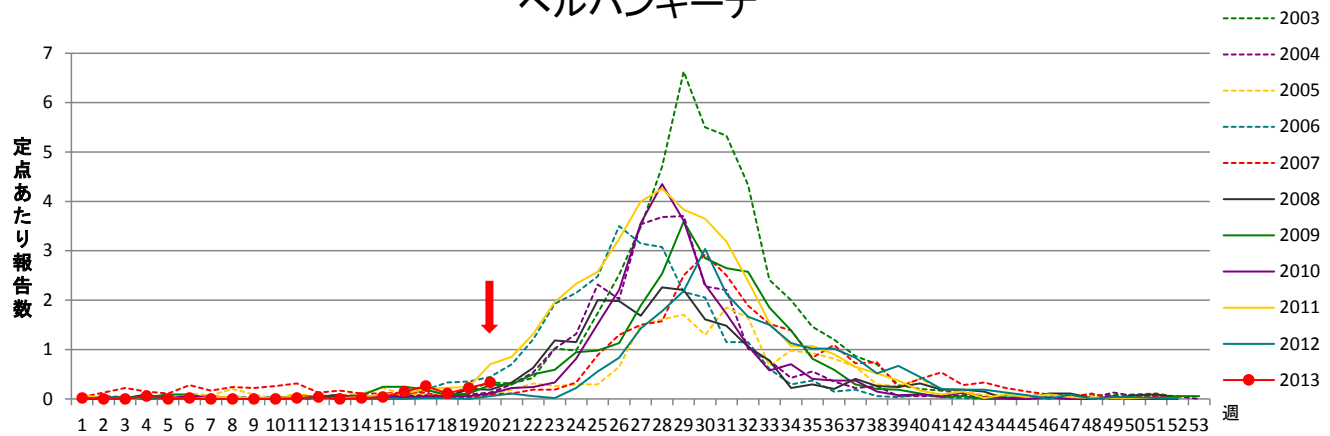
### 突発性発疹



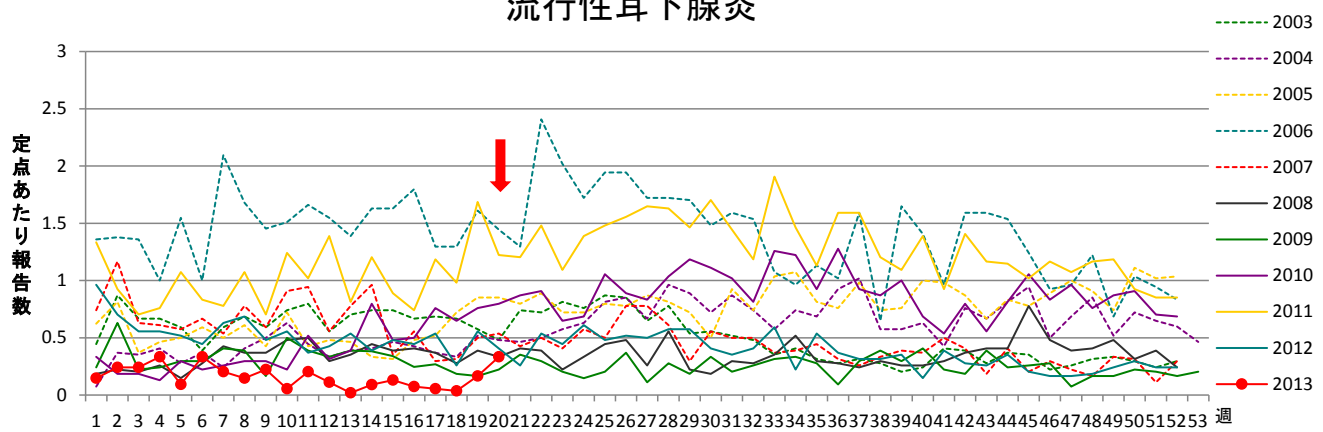
### 百日咳



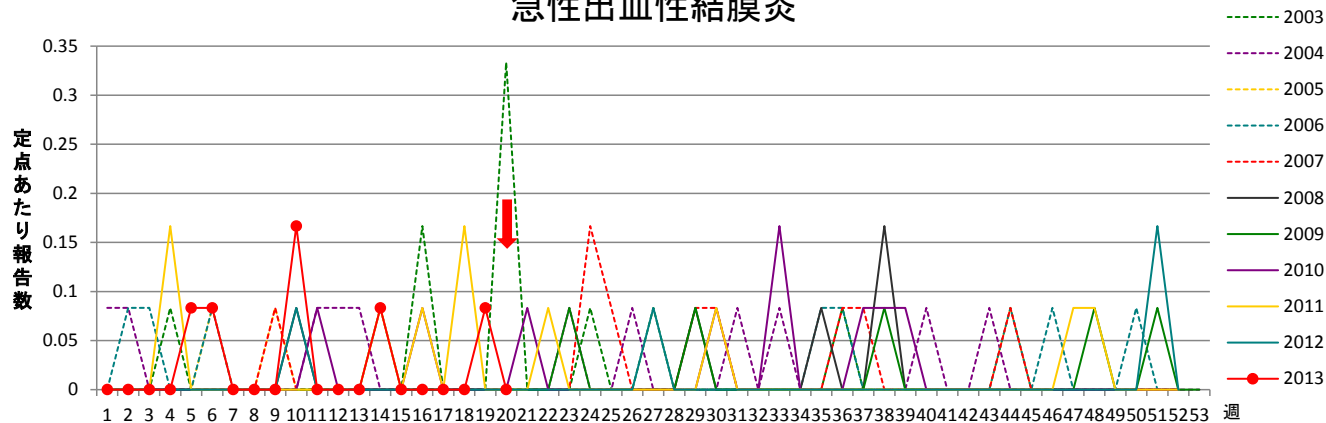
### ヘルパンギーナ



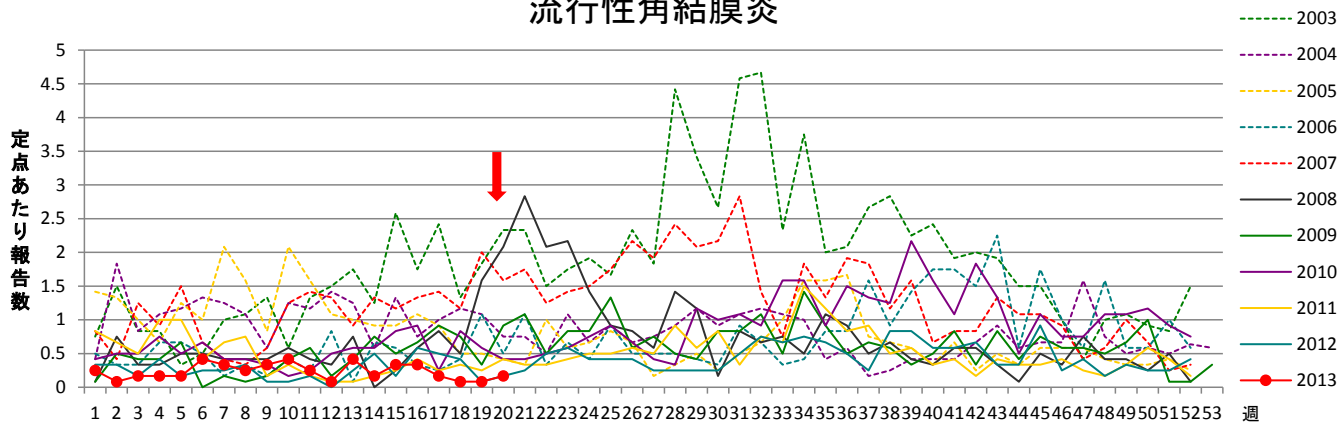
### 流行性耳下腺炎



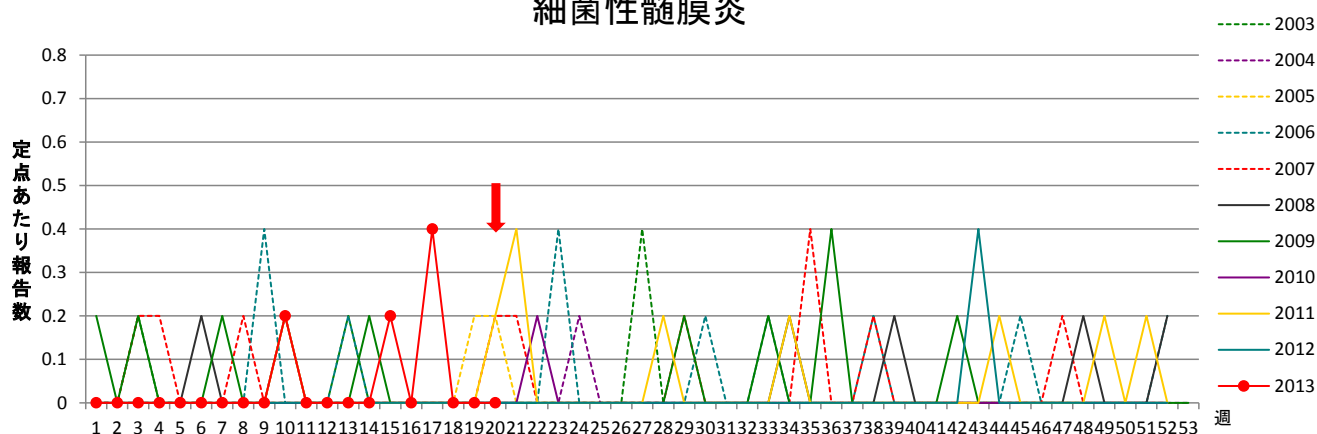
### 急性出血性結膜炎



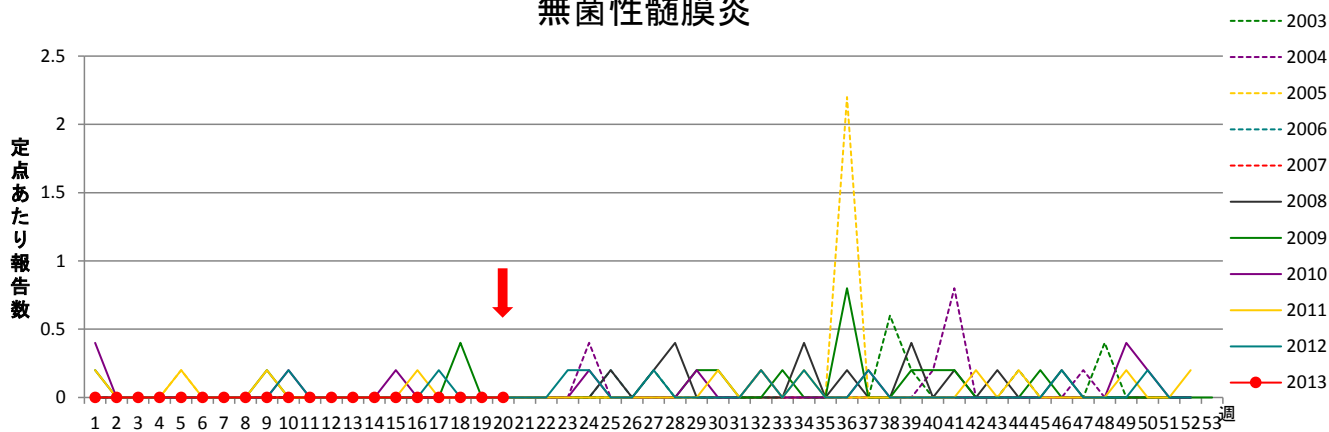
### 流行性角結膜炎



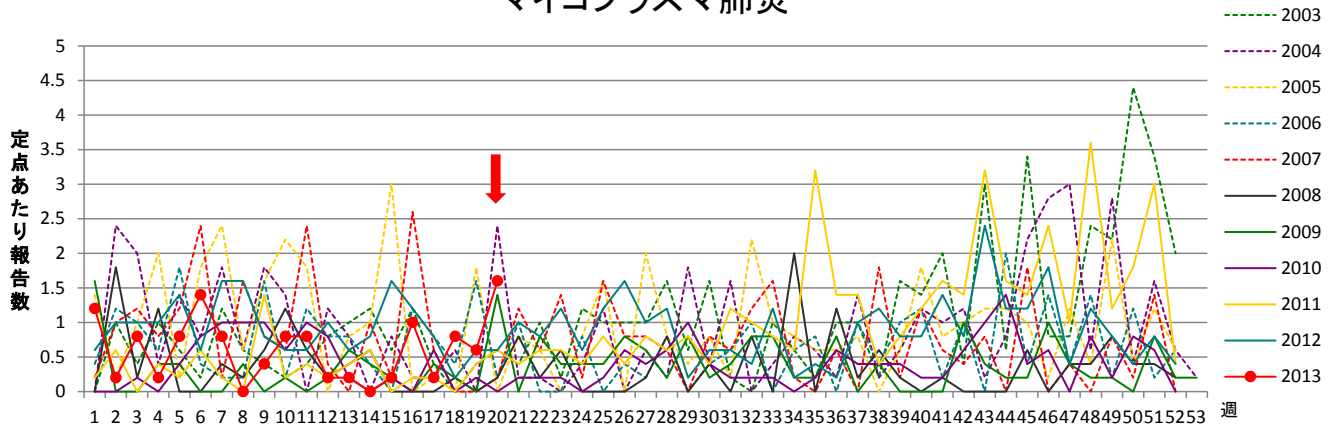
### 細菌性髄膜炎



### 無菌性髄膜炎



### マイコプラズマ肺炎



### クラミジア肺炎

